

調査・研修等計画届出書

令和 5年 9月25日

瀬戸市議会議長 様

議員名 富田 宗一

政務活動 として、下記のとおり調査・研修等を実施いたします。

記

| | | |
|--|--|---------|
| 期 日 | 令和 5年10月11日から10月13日まで（2泊3日） | |
| 調査先・研修名 | 青森県八戸市周辺視察 | |
| 会場名（会場所在地） | 岩手県洋野村視察・岩手県野田村視察 青森県八戸市美術館視察・青森県おいらせ町視察 | |
| 調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて） | 岩手県洋野村視察 ：東日本大震災からの復旧・復興の取り組みについて 岩手県野田村視察 ：野田村復興展示室 青森県八戸市美術館視察 ：学校、企業などとの連携と効果、アートを通してのまちづくり、イベント等における市民の反応 青森県おいらせ町視察 ：東日本大震災からの復旧・復興の取り組みについて | |
| 議長名の依頼 | 要・ <input checked="" type="checkbox"/> 不要 | 依頼先（名称） |
| | | |
| 同行者名 | 小澤 勝・西本 潤・三木 雪実・宮菌 伸仁・高島 淳・朝井 賢次・山内 精一郎・颯田 季央・黒柳 知世 | |

※行程表を添付してください。

調査・研修等報告書

令和5年10月16日

瀬戸市議会議長 様

議員名 富田 宗一

政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施したので報告します。

記

| | |
|---|--|
| 期 日 | 令和5年10月11日から10月13日まで（2泊3日） |
| 調査先・研修名 | 青森県八戸市周辺視察 |
| 会場名（会場所在地） | 岩手県洋野村視察・岩手県野田村視察 青森県八戸市美術館視察・青森県おいらせ町視察 |
| 調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて） | 岩手県洋野村視察 ：東日本大震災からの復旧・復興の取り組みについて 岩手県野田村視察 ：野田村復興展示室 青森県八戸市美術館視察 ：学校、企業などとの連携と効果、アートを通してのまちづくり、イベント等における市民の反応 青森県おいらせ町視察 ：東日本大震災からの復旧・復興の取り組みについて |
| 調査先の事業の現状・課題 / 研修で学んだこと・キーワード等 | |
| 岩手県洋野村視察 ：東日本大震災からの復旧・復興の取り組みについて 津波の犠牲者「伝承」が影響 東北地方は過去、昭和三陸津波など何度も災害を経験してきました。かつての災害の教訓をどのように受け継いできたかということが、東日本大震災での避難行動に影響していたことが専門家の調査で分かってきました。 太平洋に面している岩手県洋野町八木地区では、東日本大震災で13メートルの津波に襲われましたが、犠牲者はひとりもでませんでした。この地区ではおよそ90年前に起きた「昭和三陸津波」でおよそ80人が犠牲になり、住民たちはその記憶 | |

を代々伝えてきました。その教訓が生かされたのが 11 年前の東日本大震災です。真っ先に逃げていた子供たちの姿でした。

「誰に言われなくても、子供たちが自ら避難していた。これからも教訓を代々語り継いで、津波の犠牲者がいないようにしなくてはならない。」

岩手県野田村視察

：野田村復興展示室

野田村でも最大約 18 メートルの津波が来襲。村の中心部を含む 2.3 平方キロメートルが浸水し、37 人の尊い命が失われ、村内住家の約 3 分の 1 が流失・損壊するなど、甚大な被害を受けた。

平成 23 年 11 月に「野田村東日本大震災津波復興計画」を、平成 25 年 4 月には「野田村復興むらづくり計画」を策定し、多重防災型の将来にわたって災害に強いまちづくりと、野田村らしい魅力ある暮らしの実現を目指して取り組んできた。

青森県八戸市美術館視察

：学校、企業などとの連携と効果、アートを通してのまちづくり、イベント等における市民の反応

八戸市美術館は 2011 年 11 月 3 日に、これまでにない新しいタイプの「美術館」として、生まれ変わってオープンしました。

八戸市美術館は、アートを通じた出会いが人を育み、人の成長がまちを創る「出会いと学びのアートファーム」をコンセプトとしています。従来の「もの」としての美術品展示が中心だった美術館とは異なり、「ひと」が活動する空間を大きく確保することで、「もの」や「こと」を生み出す新しいかたちの美術館として、新たな文化創造と八戸市全体の活性化を図ることを目指している。

新美術館の特徴としてはジャイアントルームとして、エントランスとしての役割のみならず、人々が自由に集い、学び、活動する場としての役割も担う巨大な空間。専門性の高い個室群として、より深く学び、さらに違う専門性に偶然出会える、それぞれの個性がある個室群をジャイアントルームの周辺に配置してあり、二つの特徴的な空間により美術館における学びの環境を目指している。

青森県おいらせ町視察

：東日本大震災からの復旧・復興の取り組みについて

おいらせ町では震度 5 強という強い揺れを観測するとともに、その後発生した大津波は推定 8 メートルの高さで襲い掛かり町民・経済基盤に大きなダメージを与え、沿岸部を中心に大きな爪痕を残しました。

避難概要としては、のべ避難者数 2,442 人 (21 日間)

被害状況としては、1) 人的被害：重傷者 1 名、軽傷者 2 名

2) 住宅・非住宅 ①住家 152 棟 (うち全・半壊 78 棟)

②非住家 (うち全・半壊 98 棟)

以上のような被害により、おいらせ町は平成 23 年 8 月 17 日特定被災地方公共団体に指定され、復興のために実施する必要がある事業については復興交付金により対応できることとなり、これに対応した「おいらせ町震災復興計画 (平成 24 年 1 月) を立案し、これを指針とした復興・再生を進めました。

調査先 (主な質疑・応答内容) / 研修 (受講後の感想)

岩手県洋野村視察

：東日本大震災からの復旧・復興の取り組みについて

Q 震災では死亡・行方不明者がゼロだったと聞くが、どのような点が功を奏したのか。

A 主なものとして三つ挙げられます。

一つ目は「住民の津波避難の意識の高さ」です。過去の津波被害を教訓に、昭和 8 年の三陸津波の翌年から同津波の惨禍を伝える石碑の前で、毎年、津波にあった 3 月 3 日の前後に慰霊祭を行っています。このため、住民は、津波の被害や教訓を知っており、「地震が来たら高台に逃げる」という心構えを持っています。実際に、東日本大震災では、この心構えを守ったことで、当時、八木地区には防潮堤がなかったにもかかわらず、死者・行方不明者は一人もでませんでした。

二つ目は、津波発生時の消防団の行動が徹底されていたことが挙げられます。震災では、東日本の各地において、消防団員の犠牲者が出ましたが、その多くは避難誘導のため、海岸付近に向かったり、留まっていたことで逃げ遅れて津波に巻き込まれたことが原因とされています。震災時、本町の消防団は、現場での活動範囲を縮小し、率先避難を基本として活動しました。この方法は、町の防災アドバイザーによって提唱されたものですが、非常に高い効果を上げました。

三つ目は、防潮堤の整備が挙げられます。震災当時、町内には六つの地区に海拔 12 メートルの防潮堤が整備されていましたが、防潮堤により津波が堰き止められ、住家被害はありませんでした。

Q 震災時において防災計画はどれくらい機能したか

A 本町の地域防災計画は、大きく分けて三つの柱となる計画から構成されています。一つ目が、訓練や施設整備等に関する「災害予防計画」、二つ目が、災害が発生した後の対応に関する「災害応急計画」、三つ目が、復興に関する「災害復旧・復興計画」です。ご質問は、これらがどれくらい機能したかということですが、結論から申し上げますと、震災に関しては、ほとんどをカバーできたと考えています。

岩手県野田村視察

：野田村復興展示室

Q 震災への対応は

A 避難の状況としては野田村保育所の避難は、海岸から約 500 メートルの距離にあった野田村保育所は、園児 81 人、職員 18 人の全員が避難して無事でした。3 月 11 日は偶然、月に一度の避難訓練の日で、指定避難場所に避難し、その後さらに高台の中学校に向かって避難した。

避難所の開設状況としては、震災翌日の避難者は 912 人で当時の村の人口の 18.8%にのびりました。応急仮設住宅の完成に伴って 7 月 3 日に閉鎖されるまで最大 11 カ所におよそ 4 か月に渡り開設されました。

Q 復興事業と復興村づくり計画として思い描いた村の姿の実現の取り組みについて

A 野田村らしい魅力ある暮らしを目指した「野田村復興村づくり計画」な策定として、平成 25 年 4 月、「野田村東日本大震災津波復興計画」の発展・充実版として「野田村復興むらづくり計画」を策定しました。この計画では、これまで長い年月をかけて育まれてきた村の魅力を大切にするという視点を中心に捉え、復興事業等を通じて「野田村らしい魅力ある暮らし」の実現を目指しています。

青森県八戸市美術館視察

：学校、企業などとの連携と効果、アートを通してのまちづくり、イベント等における市民の反応

Q 新美術館について、整備の背景

A 新しい美術館整備を求める市民の声が高まり、平成 27 年 3 月に「24 万都市にふさわしい新美術館の建設を求める陳情書」が議会で採択される。

「アートのまちづくり」の中核施設としての美術館機能充実。

旧美術館の施設面での課題解決（旧美術館は昭和 44 年に建設された建物の老朽化、耐震性、展示空間の不足等）

Q 美術館のビジョンとは

A 種を蒔き、人を育み、100年後の八戸を創造する美術館 ～出会いと学びのアートファーム～

3つの機能全てが融合した八戸固有の活動「八戸の美」に迫る。「八戸の人」を育む。「八戸のまち」に波及させる。

アートのまちづくりとしては、分野を横断した総合的な文化政策を担う。

アートの学びとしては、互いに感性を高め、育まれていく“共有“を担う。

美術館としては、展示・調査研究・収集保存を担う

青森県おいらせ町視察

：東日本大震災からの復旧・復興の取り組みについて

Q 安全な内陸部からの津波を監視するには

A これまでの地震発生時には、町職員や消防団員が沿岸部で直接海面を監視していましたが、今回整備した「津波監視カメラ」により、日中は勿論のこと深夜においても安全な高台から海面の状況を鮮明に撮影し映像を町役場災害対策本部へ無線伝送することで、町民の生命や財産を守るために適切なタイミングで避難勧告・指示の発令が可能となりました。

Q おいらせ町 明神山防災タワーの概要

A 大津波避難及びタワーの考え方・・・津波からの避難は、津波の及ばない場所（浸水域外）に位置する大津波避難場所までの避難を基本としています。明神山防災タワーは浸水域内に位置し、大津波避難場所までの避難が困難な方々のための緊急避難施設（場所）となります。総事業費約2.3億円

おいらせ町においての大山将棋記念館 ～王将館～

おいらせ町は、「将棋の町」として将棋の普及奨励と芸術文化の充実及び観光振興を目指し、個性豊かな地域社会の実現と特色あるまちづくりを推進するため、「全国将棋祭り」をはじめとした各種活性化事業を展開しております。

この取り組みに対し大山康晴十五世名人は、当初より将棋の普及奨励を通じ、地域づくり事業に積極的に関わり、将棋によるまちづくりの具現化に向け、数々の功績を残されました。その功績を称え、平成元年5月においらせ町の名誉町民に推薦されております。

町では、その有志の方から将棋に関わる数々の貴重な資料や展示品の寄贈を頂き、更なる将棋の普及奨励を図るため、新たに平成17年8月「大山将棋記念館（王将館）を会館するに至りました。

調査・研修の成果・考察

(瀬戸市への反映・自己の能力開発への寄与等)

今回の視察を通して、岩手県洋野町様・野田村様・青森県八戸市様・おいらせ町様、ありがとうございました。

東日本大震災からの復旧・復興の取り組みにおいては、色々な取り組み方を通して学び、まずは、日頃からの市民等に対する防災知識の普及啓発及び防災意識の高揚を図ることが第一ではないだろうか。また、地域住民等の協力を得ながら、地域社会全体で要配慮者の安全確保を図る体制づくり。地域住民の組織的活動が重要であり、例えば、自治会を通して、社会福祉協議会、民生児童委員、消防団、防災リーダー、横のつながりを通しての防災訓練が最も大切であり、自主防災組織の構築が大切だと思いました。

日頃からの意識、危機感を持って訓練をすることが一番大切であり、全てを行政でカバーすることは出来ない事を理解してもらい「自分たちの身は自分たちで守ろう」と自主防災組織での活動に取り組んでもらうよう声かけやサポートを行っていくことが大切である。お互いが助け合い、守りあえるまちづくりが大切だと改めて感じる事が出来き、防災教育の取り組みが犠牲者を出さないことに繋がると思いました。

八戸市美術館整備は住民パワーが行政を動かしたと思いました。瀬戸市においても美術館機能・図書館機能を通して市民が「見る」事だけではなく「つかう」美術館・図書館として変わらなければいけないと思いました。また、市民が将棋の面白さや奥深さを体験でき、将棋の魅力を体験できる藤井聡太将棋記念館（将棋会館）、美術館・図書館・将棋会館、三つを一つにまとめた施設に、市民に開かれた会館が出来るように考えたいと思いました。

行程表

乗り換え案内ジョルダン <http://www.jorudan.co.jp/>

※往復利用の場合は、往復料金を入力してください。

| 日付 | 出発駅 | 交通手段 | 片道 / 往復 | 到着駅 | 距離 | | 交通費 | | |
|-----------------------------|----------|------|---------------|------|--------------|----|----------|------|---|
| | | | | | | | 運賃 | 特急料金 | 等 |
| 5 | 名古屋飛行場 | 飛行機 | 片道 | 青森空港 | 693 | km | 37,300 | 円 | 円 |
| 年 | | | | | | km | | 円 | 円 |
| 10 | | | | | | km | | 円 | 円 |
| 月 | | | | | | km | | 円 | 円 |
| 11 | | | | | | km | | 円 | 円 |
| 日 | 宿泊先名称 | | | | TEL | | 宿泊料金 | | |
| | アパホテル本八戸 | | | | 0178-73-3000 | | 13,000 円 | | |
| 備考欄 | | | | | | | | | |
| 青森空港から八戸市内の移動の際はレンタカーを使用する。 | | | | | | | | | |

50,300 円

| 日付 | 出発駅 | 交通手段 | 片道 / 往復 | 到着駅 | 距離 | | 交通費 | | |
|-----------------------|----------|------|---------------|-----|--------------|----|----------|------|---|
| | | | | | | | 運賃 | 特急料金 | 等 |
| 5 | | | | | | km | | 円 | 円 |
| 年 | | | | | | km | | 円 | 円 |
| 10 | | | | | | km | | 円 | 円 |
| 月 | | | | | | km | | 円 | 円 |
| 12 | | | | | | km | | 円 | 円 |
| 日 | 宿泊先名称 | | | | TEL | | 宿泊料金 | | |
| | アパホテル本八戸 | | | | 0178-73-3000 | | 13,000 円 | | |
| 備考欄 | | | | | | | | | |
| 八戸市内の移動の際はレンタカーを使用する。 | | | | | | | | | |

小計 13,000 円

| 日付 | 出発駅 | 交通手段 | 片道 / 往復 | 到着駅 | 距離 | | 交通費 | | |
|-----------------------------|-------|------|---------------|--------|-----|----|--------|------|---|
| | | | | | | | 運賃 | 特急料金 | 等 |
| 5 | 青森空港 | 飛行機 | 片道 | 名古屋飛行場 | 693 | km | 37,300 | 円 | 円 |
| 年 | | | | | | km | | 円 | 円 |
| 10 | | | | | | km | | 円 | 円 |
| 月 | | | | | | km | | 円 | 円 |
| 13 | | | | | | km | | 円 | 円 |
| 日 | 宿泊先名称 | | | | TEL | | 宿泊料金 | | |
| | | | | | | | 円 | | |
| 備考欄 | | | | | | | | | |
| 八戸市内から青森空港の移動の際はレンタカーを使用する。 | | | | | | | | | |

バック等による割引など

小計 37,300 円

22,250 円

宿泊費 合計

交通費 合計

26,000 円

74,600 円

申請額合計
(宿泊費+交通費-割引代)

78,350 円